

僕を支えた数々の言葉

北海道

砂川錬心館

中学2年 石坂隆真

世の中、何事にも器用に出来る人、そうでない人がいると思う。僕は後者のタイプだ。最初から器用に出来る人が羨ましく思う。僕は人の倍、いや、十倍以上やらないと出来ない。そんな僕に母は小さい頃、童話『うさぎとかめ』を読んでくれ、「隆真はこつこつ頑張る亀だよ。」と言われた記憶がある。何事にもこつこつ頑張る亀が目標になった。

剣道と出会ったのは、小二の春だ。見学に行き、防具をつけて稽古をしている先輩方が格好良く、輝いている様に見えた。剣道を始める前に家族で相談し、『何事も始めたら最後までやりぬく事、目標を決める事』を約束し、剣道を始めた。最初は楽しく、週四回の稽古が楽しみだった。しかし、続けていくうちに稽古も厳しくなり、時間も長くなり、何事にも上手く出来ず投げ出したくなる事もあった。そんな時、剣道を始めて最初にお世話になった先生から「隆真は人より芽が出るのは遅いかもしれないけど、努力していたらいつか大きな花が咲くよ。」と声をかけていただいた。とても心に響いた。何度も挫けそうになったけれど、この言葉を胸に頑張ってきた。

六年生最後に新型コロナウイルスが世界各国で流行し、楽しみにしていた三月に茨城県で行われる大会も中止になり、なんだか剣道に対する気持ちも冷めてきてしまい、辞めようか考えるようになった。そんな僕に祖父は「今辞めたら絶対に後悔する。何度も辞めようと思ったけど頑張ってこられた。この頑張りを無駄にするのか。四字熟語に雲外蒼天（うんがいそうてん）という言葉がある。困難を乗り越え、努力し克服すればよいことが待っているという意味だ。隆真なら出来る」と話してくれた。祖父は僕が生まれるずっと前から剣道をやっていた。祖父の言葉に奮起し、中学校に入っても剣道を続けることにした。『雲外蒼天』が心に残る大切な言葉になった。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大はおさまらなく、稽古や大会が中止になった。体が怠っていたのか、なれないマスク生活や新しい学校生活が原因でストレスを抱えているのか、小さい頃に苦しんでいた喘息の発作が頻繁に出るようになった。学校は休みがちになり、稽古もドクターストップがかかる程だった。一時期は辞めてしまおうかと弱い心がでて葛藤したが、祖父との約束を胸に、自分で無理の無い筋トレをし、体調管理をして発作が出にくくなった。今では、稽古が中止になったり再開したりの繰り返しだが、喘息と上手く付き合えている。

僕は、たくさんの先生や先輩、祖父や両親に温かい言葉や励ましの言葉をかけていただき、頑張ってきた。ある先生は、僕が初段の昇段審査を受ける前日まで、毎日剣道形の稽古を通常の稽古が終わってからつけてくれた。初段に合格し、報告すると「隆真が頑張った成果だよ。」とおっしゃり、「自分のことのように嬉しい。」ともおっしゃってくれた。合格したのも嬉しかったけれど、先生の僕への思いに胸が熱くなった。それと同時に次は三段合格が僕の目標になった。

僕に的確にアドバイスをくれる先輩、僕の変化に一番に声をかけてくれる先輩。また同級生からの励みや競争も剣道を続ける原動力になっていて、仲間にも恵まれたとつくづく実感している。

来年は中学三年生。最高学年になる。歴代の先輩達が行ってきた、後輩の手本になれるよう、また、礼儀や心遣いも出来るように、そして、努力する素晴らしさを伝えられるようになりたい。そして、中学校卒業には「剣道をやっていて良かった」と胸を張って言いたい。